

感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況 — 2020年 —

尾上恵子 鈴木理央 小菅隆裕 宜保輝 安藤紗絵子 尾関由姫恵

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2020

Keiko Onoue, Rio Suzuki, Takahiro Kosuge, Hikaru Gibo, Saeko Ando, Yukie Ozeki

はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第12条から16条に基づく全国サーベイランスである。この事業は一類から五類感染症、新感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を診断した医師からの届出を受け、感染症の地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し、その情報を速やかに還元するものである。当所では2004年から「感染症発生動向調査実施要綱」に基づく基幹感染症情報センターとして、埼玉県における感染症の発生についての情報収集、解析及び提供を行っている。

2020年の発生動向調査では、感染症法第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正により流行性角結膜炎の届出基準の項目にアデノウイルス抗原の検出が追加された。この変更は2020年4月1日から施行された。また、2019年に中華人民共和国で初めて報告された新型コロナウイルス肺炎は、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る）であるものに限る）として、2020年2月1日から指定感染症に定められた（新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和2年政令第11号令和2年1月28日））。

今回は2020年の発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況について報告する。

対象及び方法

感染症法に基づく対象疾患の届出概要を表1に示す¹⁾。埼玉県基幹情報センターとしてさいたま市、川越市、越谷市及び川口市を含む全県域から収集した届出を対象とした。新型コロナウイルス感染症を除く疾患の届出数の集計には、従来と同じく感染症サーベイランスシステム（National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease：NESID）の感染症発生動向調査システムに登録された2021年

3月時点の確定数をダウンロードして用い、新型コロナウイルス感染症は埼玉県新型コロナウイルス感染症対策本部で収集した情報を2021年4月時点での暫定値として用いた。なお、全数把握対象疾患は診断日が2020年1月1日から2020年12月31日に属する届出を、定点把握対象疾患のうち、週単位報告対象疾患は2020年第1週（2019年12月30日～2020年1月5日）から53週（2020年12月28日～2021年1月3日）まで、月単位報告対象疾患は、2020年1月から12月までの報告を対象とした。年齢別の集計は、全数把握対象疾患では10歳毎の階級に分け、定点把握対象疾患では感染症発生動向調査事業の報告書式の年齢階級を適用した。

結果

1 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表2-1に、四類感染症を表2-2に、五類全数把握対象疾患を表2-3に、指定感染症を表2-4にそれぞれ示した。

(1) 一類から三類感染症

一類感染症は疑似症を含め届出はなかった。

二類感染症の結核は男518例、女354例の計872例の届出があり、前年の1,243例と比べ大きく減少した。類型別では、患者が630例（感染症死亡者の死体1例を含む）、無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）が239例、疑似症患者が3例であった。前年と比べると患者は109例減少し、無症状病原体保有者は260例減少した。患者では60歳以上が66.2%を占め、男は60歳代から80歳代が多く、女は80歳代が最も多かった。性比は男が女の1.9倍であった。無症状病原体保有者では、男は50歳代及び70歳代、女は40歳代が最も多かった。

三類感染症は、細菌性赤痢6例、腸管出血性大腸菌感染症95例、腸チフス1例の計102例の届出があった。

1) 細菌性赤痢

男3例、女3例の計6例の届出があり、前年の6例と同数であった。症例の年齢は10歳未満から50歳代に分布した。類型別では、患者5例、無症状病原体保有者1例であった。いずれも診断方法は便からの分離・同定による病原体の検出であり、菌種は *flexneri* (B群) 及び *somei* (D群)

表 1 感染症法における対象疾患の届出概要

2020年12月31日現在

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
一類	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
二類	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	
三類	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
四類	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	エキノコックス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	キャサナル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	コクシオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
ポツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
野兔病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	

*疑似症 明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す。但し、鳥インフルエンザはH5亜型、H7亜型ウイルスが検出された患者
 **内容 a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他(保護者の住所氏名)

表 1 感染症法における対象疾患の届出概要(続き)

2020年12月31日現在

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
五類	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	○	×	×	内科 小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(入院)	○	×	×	基幹	次の月曜	c1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
	急性弛緩性麻痺	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b2
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	水痘(入院例)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b1
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	百日咳	○	×	×	(全数)	7日以内	b1
	風しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	麻しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	
薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	
流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	
流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	
淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	
指定感染症	新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a

*疑似症 明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す
 **内容 a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他(保護者の住所氏名)
 b1: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名
 b2: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、最近数年間の主な居住地、国籍
 c1: 年齢、性別
 c2: 年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

の検出が各3例であった。推定感染地域は国外が5例（タイあるいはパキスタンが3例，ニューカレドニア2例），国内が1例であった。

2) 腸管出血性大腸菌感染症

男48例，女47例の計95例の届出があった。前年の152例より大きく減少した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布した。年齢階級別では，20歳代，10歳代，10歳未満，30歳代の順に多かった。類型別では，患者70例，無症状病原体保有者25例で，患者が全体の73.7%を占め，前年の75.7%と同水準であった。O血清型は，O157が72例と最も多く，次いで多かったのはO26の9例で，O157とO26の全体に占める割合はそれぞれ75.8%と9.5%であった。年齢階級別では，O157の検出が最も多かったのは10歳代，O26の検出が最も多かったのは20歳代であった。その他の血清型はO103が5例，O121が2例，O20，O74，O115，O181が各1例，その他に型別不能（OUT）が3例であった。例年の流行期である6月～9月の届出数は6月が6例，7月が11例，8月が18例，9月が26例で，9月を除き過去5年の中で最も少なかった。

患者95例の症状は，腹痛が61例，水様性下痢52例，血便41例，発熱15例，嘔吐9例，急性腎不全1例で，溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症者は認められなかった。

3) 腸チフス

7月に女90歳代1例の届出があり，前年の1例と同数であった。類型は患者で，診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は国内であった。

40歳代及び50歳代の各7例が最も多かった。類型は患者が24例，無症状病原体保有者が4例で，診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出が6例，PCR法による病原体遺伝子の検出のみが2例，血清IgA抗体の検出のみが20例であった。推定感染経路は経口感染12例，不明16例で，推定感染地域は国内27例，国外（中華人民共和国）1例であった。届出は年間を通して確認され，無症状病原体保有者の4例は献血により探知された症例であった。

2) A型肝炎

男2例，女2例の計4例の届出があり，前年の14例より減少した。症例の年齢は10歳代，30歳代，40歳代及び70歳代で，類型は全て患者で，診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が2例，血清IgM抗体の検出のみが2例であった。推定感染経路は経口感染が2例，不明が2例で，推定感染地域は国内が3例，不明が1例であった。また，ワクチン接種歴は無しが3例，不明が1例であった。

3) オウム病

前年発生が無かったオウム病は5月に女30歳代1例の届出があった。診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出で，推定感染経路は鳥類との接触，推定感染地域は国内であった。

4) ジカウイルス感染症

2016年に対象疾患となって以来初めて，3月に男30歳代1例の届出があった。診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出で，推定感染地域はインドネシアであった。

5) つつが虫病

11月に男60歳代1例，12月に女80歳代1例の計2例の届出があり，前年の1例を上回った。共に，診断方法は間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清IgM抗体の検出で，推定感染地域は国内（県内）であった。

6) デング熱

1月に女20歳代1例，2月に女60歳代1例の計2例の届出があり，前年の16例より減少した。共に，病型はデング熱で，診断方法は，NS1抗原の検出であった。推定感染地域は前者がフィリピン，後者がブラジルあるいはペルーであった。

7) レジオネラ症

男80例，女27例の計107例の届出があり，前年の117例より減少した。症例の年齢は30歳代から90歳代に分布し，60歳以上が全体の77.8%を占めた。類型別では患者104例，無症状病原体保有者3例で，患者の病型別では肺炎型102例，ポンティアック熱型2例であった。

年間を通して届出はあったが，月別の届出数は7月の18例，10月の15例，6月及び9月の各11例の順に多かった。

診断方法は，酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が104例，PCR法またはLAMP法による病原遺伝子の検出が12例，分離・同定による病原体の検出が5例であった（重複例有り）。推定感染地域は，国内86例，国外1例，不明20例で，国内感染例のうち県内は77例であった。

表 2-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2020年	2019年	2018年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	872	1,243	1,166
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0	
三類	コレラ	0	0	1
	細菌性赤痢	6	6	31
	腸管出血性大腸菌感染症	95	152	279
	腸チフス	1	1	1
	パラチフス	0	4	2

(2) 四類感染症

四類感染症は，E型肝炎28例，A型肝炎4例，オウム病1例，ジカウイルス感染症1例，つつが虫病2例，デング熱2例，レジオネラ症107例の計145例の届出があった。

1) E型肝炎

男23例，女5例の計28例の届出があり，前年の21例より増加した。症例の年齢は20歳代から90歳代に分布し，

表 2-2 四類感染症の届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	2020年	2019年	2018年		2020年	2019年	2018年
E型肝炎	28	21	29	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ ^(H5N1 及びH7N9を除く)	0	0	0
A型肝炎	4	14	41	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノコックス症	0	0	0	日本紅斑熱	0	1	0
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	1	0	1	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサナル森林病	0	0	0	ブルセラ症	0	0	0
Q熱	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ボツリヌス症	0	1	0
ジカウイルス感染症	1	0	0	マラリア	0	2	7
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	1	0
チクングニア熱	0	3	1	レジオネラ症	107	117	100
つつが虫病	2	1	4	レプトスピラ症	0	1	0
デング熱	2	16	2	ロッキーマウンテン紅斑熱	0	0	0

(3) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢30例、ウイルス性肝炎（E型・A型を除く）6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症81例、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）2例、急性脳炎23例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症30例、後天性免疫不全症候群29例、侵襲性インフルエンザ菌感染症12例、侵襲性髄膜炎菌感染症2例、侵襲性肺炎球菌感染症63例、水痘（入院例）13例、梅毒168例、播種性クリプトコックス症10例、破傷風5例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳108例、風しん4例の計589例の届出があった。

1) アメーバ赤痢

男24例、女6例の計30例の届出があり、前年の36例より減少した。症例の年齢は20歳代から70歳代に分布し、50歳代の14例が最も多く、次いで60歳代の7例の順に多かった。届出は年間を通して確認された。病型別では、腸管アメーバ症28例、腸管及び腸管外アメーバ症2例であった。診断方法は、いずれも鏡検による病原体の検出で、腸管及び腸管外アメーバ症の2例には、肝膿瘍の所見が認められた。推定感染経路は経口感染及び性的接触が各6例、不明18例で、性的接触の内訳は異性間性的接触及び異性同性不明が各3例であった。推定感染地域は、国内22例、不明8例であった。

2) ウイルス性肝炎（E型・A型を除く）

B型肝炎5例、その他のウイルス性肝炎1例の計6例の届出があり、前年の5例を上回った。C型肝炎の届出はなかった。

B型肝炎は1月から6月に男5例の届出があった。症例の年齢は10歳代から50歳代に分布した。いずれも、診断方法は血清IgM抗体（HBc抗体）の検出であった。ウイ

ルスの遺伝子型はB型が3例、A型が2例であった。推定感染経路は性的接触が4例、不明が1例で、性的接触の内訳は異性間性的接触及び異性同性不明が各2例であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。

その他のウイルス性肝炎は、サイトメガロウイルス（CMV）による肝炎が6月に女20歳代の届出があった。診断方法は、CMVに対するIgM抗体及びIgG抗体の検出であった。推定感染経路は異性間性的接触で、推定感染地域は国内であった。

3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

男50例、女31例の計81例の届出があり、前年の90例より減少した。症例の年齢は0歳から90歳代まで幅広く分布したが、60歳以上が64例で全体の79.0%を占めた。症状は菌血症・敗血症が36例、尿路感染症が20例、胆嚢炎・胆管炎が13例、肺炎が11例、腸炎・腹膜炎が7例、髄膜炎2例であった（重複例有り）。検査検体で多かったのは、血液の39検体、喀痰及び尿の各11検体であった（重複例有り）。

分離された菌は多い順に *Klebsiella aerogenes* が37株、*Enterobacter cloacae* が20株、*K. pneumoniae*、*Escherichia coli* 及び *Serratia marcescens* が各5株、*Citrobacter freundii* が3株、*K. oxytoca* 及び *E. cancerogenus* が各2株、*E. asburiae* が1株で、この他に *Enterobacter* sp. が1株報告された。

4) 急性弛緩性麻痺

4月に男10歳未満1例、8月に女10歳代1例の計2例の届出があり、前年の4例を下回った。いずれも病原体は不明であった。ワクチン接種歴は前者が有り、後者が不明であった。推定感染経路は前者が飛沫・飛沫核感染、後者が不明で、推定感染地域はいずれも国内であった。

表 2-3 五類感染症の届出数(全数把握)

疾患名	埼玉県		
	2020年	2019年	2018年
ア메ーバ赤痢	30	36	44
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	6	5	10
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	81	90	94
急性弛緩性麻痺*	2	4	6
急性脳炎	23	59	37
クリプトスポリジウム症	0	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	8	6
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	30	30
後天性免疫不全症候群	29	46	31
ジアルジア症	0	0	2
侵襲性インフルエンザ菌感染症	12	17	23
侵襲性髄膜炎菌感染症	2	0	1
侵襲性肺炎球菌感染症	63	137	137
水痘(入院例)	13	17	13
先天性風しん症候群	0	1	0
梅毒	168	205	234
播種性クリプトコックス症	10	9	3
破傷風	5	4	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	2	5
百日咳**	108	704	719
風しん	4	198	190
麻しん	0	35	16
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	1	8

*急性弛緩性麻痺は2018年5月1日から届出の対象

**定点把握対象疾患であった百日咳は2018年1月1日から全数把握対象疾患に移行

5) 急性脳炎

男9例, 女14例の計23例の届出があり, 前年の59例より大きく減少した。症例の年齢は0歳から70歳代に分布し, 階級別では10歳未満が20例と大半を占めた。

病原体別では, インフルエンザウイルスによるものが9例(A型7例, 型不明2例), ヘルペスウイルスが3例, ニューモウイルスが2例で, 病原体が特定されなかったのは9例であった。また, 届出は1月から7月及び11月にあり, インフルエンザウイルスが検出された患者は, 1月及び2月に診断されていた。推定感染地域は, 全て国内(県内21例)であった。

6) クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

5月に女60歳代1例, 8月に男70歳代1例の計2例の届出があり, 前年の8例より減少した。病型はいずれも古典型CJDで, 診断の確実度は, 前者がほぼ確実, 後者が疑いであった。

7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

男18例, 女12例の計30例の届出があり, 前年と同数であった。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し, 60歳以上が21例で全体の70.0%を占めた。届出は10月を除く各月にあり, 1月の6例が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で, 血清群はA群が14例, G群が13例, B群が3例であった。推定される感染経路は創傷感染が14例, 接触感染が1例, その他が1例, 不明が14例で, 推定感染地域は国内が26例(県内23例), 不明が4例であった。

8) 後天性免疫不全症候群

男29例の届出があり, 前年の46例より減少した。女の

届出はなかった。症例の年齢は10歳代から50歳代に分布し, 20歳代から40歳代が26例で, 全体の89.7%を占めた。病型はAIDSが11例で, その指標疾患はサイトメガロウイルス感染症(生後1か月以後で, 肺, 脾, リンパ節以外), カンジダ症(食道, 気管, 気管支, 肺)が各4例, ニューモシスティス肺炎が3例, クリプトコックス症(肺以外), HIV脳症が各2例, 反復性肺炎, HIV消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)が各1例であった(重複例有り)。また, 無症状病原体保有者が18例であった。推定される感染経路では性的接触が25例, 不明が4例で, 性的接触の内訳は同性間性的接触が21例, 異性間性的接触が4例であった。

また, 病型別の年齢分布では, AIDSは20歳代から40歳代に分布し, 40歳代の7例が最も多かった。無症状病原体保有者は10歳代から50歳代に分布し, 20歳代の8例が最も多かった。

9) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

男4例, 女8例の計12例の届出があり, 前年の17例より減少した。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し, 10歳未満で2例, 40歳以上で10例の報告があった。診断方法は, 血液からの分離・同定による病原体の検出が11例であった。残りの1例は髄液からの分離・同定による病原体の検出及び血液からのPCR法による病原体遺伝子の検出で, 血清群はB群であった。ヒブワクチン接種歴は, 有りが1例(1-4歳), 無しが5例(0歳を含む), 不明が6例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が3例, 不明が7例で, 残りの2例は従来からの保菌, 医療機器からの感染が疑われていた。推定感染地域は全て国内(県内11例)であった。

10) 侵襲性髄膜炎菌感染症

前年発生がなかった侵襲性髄膜炎菌感染症は1月に男10歳未満1例, 3月に女40歳代1例の計2例の届出があった。診断方法は, 前者が髄液及び血液からの分離・同定による病原体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出で, 血清群はB群, 後者が血液からの分離・同定による病原体の検出で, 血清群は不明であった。推定感染経路は前者が不明, 後者が飛沫・飛沫核感染, 推定感染地域は前者が国内(県内), 後者はブラジルであった。

11) 侵襲性肺炎球菌感染症

男40例, 女23例の計63例の届出があり, 前年の137例より減少した。症例の年齢は1歳から90歳代に分布し, 60歳以上が41例で全体の65.1%を占めた。20歳未満では10歳未満が8例, 10歳代が2例の報告があった。診断方法は全て分離同定による病原体の検出であった。検体の種類は血液が61例, 髄液が4例, その他の無菌部位(関節液)が1例であった(重複例有り)。症状は発熱が54例(85.7%), 菌血症が52例(82.5%), 肺炎が25例(39.7%)に認められた。ワクチン接種歴は, 20歳未満では有りが8例, 無しが2例で, 20歳以上では, 有りが70歳以上の3例及び30歳代の1例の計4例, 無しが14例, 不明が35例であ

った。推定感染地域は国内が61例（県内53例）、不明が2例であった。

12) 水痘（入院例）

男9例、女4例の計13例の届出があり、前年の17例を下回った。症例の年齢は1歳から90歳代に分布した。病型別では検査診断例が7例、臨床診断例が6例で、検査診断例の診断方法は、血清 IgM 抗体の検出が5例、分離・同定による病原体の検出が2例であった。ワクチン接種歴は無しが3例、不明が10例であった。感染経路は、家族等からの感染が4例、入院中の院内感染が3例、不明が6例で、推定感染地域は国内が12例（全て県内）、不明が1例であった。

13) 梅毒

男114例、女54例の計168例の届出があり、前年の205例より減少した。性比（男/女）は2.11で、前年の2.06と同等であった。

症例の年齢は、男では0歳から70歳代に分布し、40歳代が最も多く20歳代から40歳代が76.3%を占めた。女では0歳代から80歳代に分布し、20歳代が最も多く20歳代から40歳代が70.4%を占めた。病型は、男では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が53例、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が24例、晩期顕症梅毒が3例、先天梅毒が1例、無症状病原体保有者が33例で、女では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が12例、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が18例、晩期顕症梅毒が1例、先天梅毒が4例、無症状病原体保有者が19例であった。また、先天梅毒は、2015年、2016年、2018年に各1例の届出があったが、2020年は5例と大きく増加した。推定感染経路は、男では性行為感染が100例、母子感染が1例、不明が13例、女では性行為感染が41例、母子感染が4例、不明が9例であった。性行為感染の内訳では、異性間性的接触が男女共に最も多く、男が58例、女が33例であった。性風俗産業の直近6か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男の28.9%、従事歴が女の14.8%に認められた。HIV 感染症との合併は男11例、妊娠は女7例に認められた。また、推定感染地域は国内が127例、国外が1例、不明が40例であった。

14) 播種性クリプトコックス症

男8例、女2例の計10例の届出があり、前年の9例を上回った。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が7例、病理組織学的診断が3例、ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出が3例であった（重複例有り）。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が7例、鳥類の糞などとの接触が1例、鳥類の糞などとの接触及び免疫不全が1例、原因不明が1例であった。推定感染地域はいずれも国内（全て県内）であった。

15) 破傷風

男3例、女2例の計5例の届出があり、前年の4例を上回った。症例の年齢は60歳代から80歳代に分布した。いずれも、診断方法は臨床決定、推定感染経路は創傷感染、

推定感染地域は国内（全て県内）であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は、有りが1例、不明が4例であった。

16) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

4月に女80歳代の届出があり、前年の2例を下回った。診断方法は分離同定による腸球菌の検出で、MIC (Minimum inhibitory concentration) 測定が行われており、便から *Enterococcus faecium* が分離されていた。推定感染地域は国内であった。

17) 百日咳

男35例、女73例の計108例の届出があり、前年の704例より大きく減少した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布し、階級別では10歳未満47例、10歳代21例の順に多く、20歳未満が68例で全体の63.0%を占めた。診断方法は病原体遺伝子の検出が30例、単一血清で抗体価の高値が68例、ペア血清で抗体価の有意上昇が3例であった（重複例有り）。また、検査所見を認めないが、検査確定例と接触が有るかつ臨床的特徴を有した者が1例であった。ワクチン接種歴は有りが60例、無しが7例、不明が41例で、接種歴は有りのうち4回接種者は56例であった。また、0歳では接種歴有りが2例（接種回数3回）、無しが6例であった。また、0歳の推定感染経路は、家族からの感染が5例、不明が3例で、家族の内訳は同胞が2例、父母が3例、祖父母等が1例であった（重複例有り）。推定感染地域は国内が85例（県内78例）、不明が23例であった。

18) 風しん

男1例、女3例の計4例の届出があり、前年の198例より大きく減少した。症例の年齢は1歳から30歳代に分布した。病型は検査診断例、臨床診断例が各2例であった。検査診断例2例の診断方法は、いずれも血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は、接種回数1回が2例、不明が2例であった。推定感染経路はいずれも不明で、推定感染地域は国内が2例、不明が2例であった。

(4) 感染症法第7条第1項に規定する政令で定める指定感染症

1) 新型コロナウイルス感染症

男7,964例、女6,716例の計14,680例の届出があった。症例の年齢は0歳から100歳代に分布した。年齢階級別では、20歳代、40歳代、50歳代、30歳代の順に多く、20歳代から50歳代が9,867例で全体の67.2%を占めた。性別では、男が54.3%を占めた。類型別では、患者12,431例、無症状病原体保有者2,249例で、患者が全体の84.7%を占めた。患者12,431例の月別の発生状況は2月に確認されて以降、3月から4月に第1波、7月から8月に第2波が観察された。その後、11月から患者数は急増し、第2波を大きく超える第3波が観察された。

表 2-4 指定感染症の届出数(2020年)

疾患名	埼玉県*	全国 ²⁾
新型コロナウイルス感染症	14,680	233,785

*2021年4月26日集計

(5) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行うエボラ出血熱（サル）、マールブルグ病（サル）、ペスト（プレーリードッグ）、重症急性呼吸器症候群（イタチアナグマ・タヌキ・ハクビシン）、細菌性赤痢（サル）、ウエストナイル熱（鳥類）、エキノコックス症（犬）、結核（サル）、鳥インフルエンザ H5N1又は H7N9（鳥類）、中東呼吸器症候群（ヒトコブラクダ）の10疾患の届出はなかった。

2 定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表3-1及び3-2に、年齢階級別報告数を表4に示した。また、月単位報告の月別報告数、定点当たり報告数を表5に、性年齢階級別報告数を表6に示した。

(1) 内科・小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

第1週～53週の累積報告患者数は29,327例であった。定点当たり報告患者総数116.84は前年と比べ大きく減少した。2019-2020シーズンは2019年の第51週（12/16～22）に定点当たり29.57を観察したが、年明け後は定点当たり20.00を下回り、例年に比べ小規模な流行であった。定点当たり報告数は第12週（3/16～22）に1.00を下回り、その後は年末まで増加することはなかった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、20歳未満が全体の72.1%、10歳未満は全体の52.9%を占めた。

(2) 小児科定点把握対象疾患の動向

1) RS ウイルス感染症

第1週～53週の累積報告患者数は559例であった。定点当たり報告患者総数3.52は前年と比べ大きく減少した。例年のような夏から秋の流行は観察されず、定点当たり報告数の最大値は、第6週（2/3～9）の0.35で、前年の最大値2.73を大きく下回った。年齢階級別では15-19歳を除く階級で報告があり、1歳が最も多く、2歳未満が全体の64.9%を占めた。

2) 咽頭結膜熱

第1週～53週の累積報告患者数は1,696例であった。定点当たり報告患者総数10.67は前年と比べ減少した。例年のような夏季流行は観察されず、冬季流行も2016年と同様に小規模であった。定点当たり報告数の最大値0.62は、第2週（1/6～12）に観察された。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、1歳～4歳が全体の70.5%を占めた。

3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第1週～53週の累積報告患者数は9,817例であった。定点当たり報告患者総数61.74は前年と比べ減少した。定点当たり報告数は1月から2月までは例年同様に推移したが、3月以降は減少し、定点当たり1.00を下回る水準で推移した。定点当たり報告数の最大値は第8週（2/17～23）の4.16であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、3歳～8歳で全体の64.8%を占めた。

4) 感染性胃腸炎

第1週～53週の累積患者報告数は24,885例であった。定点当たり報告患者総数156.51は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は第4週（1/20～26）の8.69で、3月以降、例年を下回る水準で推移し、冬季流行は観察されなかった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多かった。

5) 水痘

第1週～53週の累積報告患者数は2,143例であった。定点当たり報告患者総数13.48は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は第2週（1/6～12）の1.12で、3月中旬以降、前年を下回る水準で推移した。年齢階級別では全ての階級で報告があり、10歳未満では、6歳、5歳、7歳の順に多く、4歳～9歳で全体の66.4%を占めた。

6) 手足口病

第1週～53週の累積報告患者数は786例であった。定点当たり報告患者総数4.94は前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数の最大値は第5週（1/27～2/2）の0.24で、夏季流行は観察されなかった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～4歳で全体の67.3%を占めた。

7) 伝染性紅斑

第1週～53週の累積報告患者数は562例であった。定点当たり報告患者総数3.53は前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数の最大値は第4週（1/20～26）の0.34で、2018年5月から始まった流行は同年50週（12/10～16）をピークに2020年3月まで続いた。年齢階級別では全ての階級で報告があり、5歳、4歳、6歳、1歳の順に多かった。

8) 突発性発しん

第1週～53週の累積報告患者数は3,685例であった。定点当たり報告患者総数23.18は前年と同水準であった。定点当たり報告数は3月から5月までは例年よりやや少ない水準で推移したが、1月から2月、6月以降は例年同様の動向が観察された。定点当たり報告数の最大値は第38週（9/14～9/20）の0.70であった。年齢階級別では、例年同様に1歳が最も多く、2歳未満で全体の81.8%を占めた。

9) ヘルパンギーナ

第1週～53週の累積報告患者数は410例であった。定点当たり報告患者総数2.58は前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数の最大値は第36週（8/31～9/6）の0.22で、1.00を上回ることにはなかった。年齢階級別では6ヵ月未満を除く階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～3歳で全体の68.8%を占めた。

10) 流行性耳下腺炎

第1週～53週の累積報告患者数は571例であった。定点当たり報告患者総数3.59は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は、第37週（9/7～9/13）及び第41週（10/5～11）の0.12で、前年の最大値0.20を下回った。年齢階級別では6ヵ月未満を除く階級で報告があり、5歳が最も多く3歳～7歳で全体の66.2%を占めた。

表 3-1 定点把握対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日 逾開始日	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院患者)
20-1	12/30	2,761	30	36	133	217	65	13	16	7	-	4	-	5	-	-	7	-	-	27
20-2	01/06	4,919	51	99	435	1,090	179	31	50	42	1	7	1	23	-	-	5	-	-	37
20-3	01/13	4,427	49	86	433	1,200	77	26	37	69	3	15	1	16	-	-	4	-	-	25
20-4	01/20	4,335	53	78	571	1,416	97	36	55	59	2	11	-	19	1	-	-	-	-	17
20-5	01/27	3,805	49	83	622	1,393	71	39	30	47	2	7	3	14	-	1	3	-	-	3
20-6	02/03	2,426	56	67	643	1,388	81	30	34	43	5	13	-	6	-	-	9	-	1	11
20-7	02/10	2,113	29	62	606	1,241	94	23	35	58	3	15	-	20	-	2	6	-	-	3
20-8	02/17	1,785	51	50	665	1,184	75	24	29	45	-	8	-	26	-	-	3	-	-	4
20-9	02/24	1,246	46	62	569	776	85	19	21	49	3	10	-	17	-	-	1	-	-	1
20-10	03/02	903	42	62	501	669	105	13	26	50	1	7	1	20	-	-	4	-	-	-
20-11	03/09	365	21	55	410	571	106	15	16	35	1	10	2	9	-	-	7	-	-	1
20-12	03/16	108	18	45	229	370	68	16	24	54	-	10	1	11	-	-	4	-	-	2
20-13	03/23	62	11	37	218	400	57	6	15	45	1	13	2	13	1	-	4	-	-	-
20-14	03/30	38	8	28	184	344	35	14	11	51	1	11	1	14	2	1	4	-	-	-
20-15	04/06	12	8	23	172	257	31	11	24	56	2	10	1	12	-	-	4	-	-	-
20-16	04/13	4	5	14	111	192	32	8	3	45	1	15	3	11	1	-	1	-	-	-
20-17	04/20	-	3	14	77	171	18	5	9	71	2	11	-	9	-	1	6	-	-	-
20-18	04/27	1	1	4	69	151	12	11	6	56	1	9	-	4	-	1	1	-	-	-
20-19	05/04	-	1	4	46	121	13	7	5	29	2	4	-	6	-	-	1	-	-	-
20-20	05/11	-	2	8	53	168	14	15	3	66	2	9	1	7	1	-	-	-	-	-
20-21	05/18	-	-	7	41	167	9	10	3	51	3	11	-	8	-	-	-	-	-	-
20-22	05/25	-	-	7	59	198	9	7	2	63	2	5	2	8	-	-	-	-	-	-
20-23	06/01	-	-	9	70	216	12	22	6	70	4	11	-	9	1	-	1	-	-	-
20-24	06/08	1	-	5	58	286	30	28	2	97	4	13	-	6	-	-	-	-	-	-
20-25	06/15	-	-	6	66	344	11	26	-	93	4	8	2	6	-	2	-	-	-	-
20-26	06/22	-	-	6	115	432	4	20	4	112	4	16	1	7	1	-	-	-	-	-
20-27	06/29	3	2	7	177	518	20	25	7	103	14	12	-	9	-	1	1	-	-	-
20-28	07/06	-	2	7	160	506	18	29	1	98	6	9	3	13	1	1	-	-	-	-
20-29	07/13	-	2	17	138	502	20	17	3	108	9	11	1	7	-	2	-	-	-	-
20-30	07/20	-	3	10	81	333	20	18	3	97	4	7	1	3	-	-	-	-	-	-
20-31	07/27	1	-	9	99	371	27	14	3	91	14	12	1	10	-	-	1	-	-	-
20-32	08/03	-	1	10	55	284	35	20	2	94	29	10	-	8	-	-	-	-	-	-
20-33	08/10	-	-	20	33	175	29	19	2	52	8	4	-	3	-	1	-	-	-	-
20-34	08/17	-	-	15	50	288	33	20	1	82	18	10	3	11	-	1	2	-	-	-
20-35	08/24	-	-	28	65	402	16	18	5	95	16	14	3	11	-	2	1	-	-	-
20-36	08/31	-	-	44	93	413	14	12	2	87	36	14	1	9	-	2	1	-	-	-
20-37	09/07	-	3	34	63	403	25	14	7	111	33	19	-	12	-	1	1	-	-	-
20-38	09/14	-	-	37	61	359	24	15	3	105	21	14	-	11	-	-	1	-	-	-
20-39	09/21	-	-	20	56	303	16	18	2	80	16	10	-	4	-	1	-	-	-	-
20-40	09/28	-	-	28	113	350	24	14	8	72	9	14	1	12	-	-	-	-	-	-
20-41	10/05	-	2	17	126	379	17	10	1	98	17	19	-	18	-	-	-	-	-	-
20-42	10/12	-	-	17	127	371	17	4	11	94	13	6	-	15	-	-	-	-	-	-
20-43	10/19	-	-	21	101	391	31	6	8	69	15	8	-	12	-	-	1	-	-	-
20-44	10/26	1	1	25	147	381	26	4	3	79	14	7	2	10	-	-	1	-	-	-
20-45	11/02	-	-	27	113	371	29	3	2	75	13	17	1	10	-	-	1	-	-	-
20-46	11/09	-	-	29	107	394	43	9	3	73	10	15	-	12	-	-	-	-	-	-
20-47	11/16	5	-	53	101	372	40	5	7	78	5	12	-	10	-	1	-	-	-	-
20-48	11/23	-	-	42	79	384	53	2	1	74	6	16	-	9	1	-	-	-	-	-
20-49	11/30	2	2	55	123	405	35	1	2	65	6	11	-	12	-	1	-	-	-	-
20-50	12/07	-	2	56	132	399	42	3	4	79	14	11	-	6	1	-	1	-	-	-
20-51	12/14	1	2	44	112	375	41	3	4	79	6	13	-	6	-	-	-	-	-	-
20-52	12/21	1	2	48	112	365	37	7	1	59	3	9	-	5	-	-	-	-	-	-
20-53	12/28	2	1	19	37	129	21	1	-	25	1	4	-	6	1	-	-	-	-	-
2020年 計		29,327	559	1,696	9,817	24,885	2,143	786	562	3,685	410	571	39	560	12	22	87	-	1	131
2019年 計		120,490	5,914	4,104	22,258	50,700	4,319	25,922	6,752	3,665	6,133	952	73	1,158	7	39	141	1	125	579
2020年/2019年比		0.2	0.1	0.4	0.4	0.5	0.5	0.0	0.1	1.0	0.1	0.6	0.5	0.5	1.7	0.6	0.6	0.0	0.0	0.2

(-:0)

(3) 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

第1週～53週の累積報告患者数は39例であった。定点当たり報告患者総数1.00は前年と比べ減少した。報告は年間を通して断続的に観察されたが、53週のうち24週で1例～3例の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第28週(7/6～12)、第34週(8/17～8/23)及び第35週(8/24～30)の0.08であった。年齢階級別では、70歳以上、40歳代、30歳代の順に多かった。

2) 流行性角結膜炎

第1週～53週の累積報告患者数は560例であった。定点当たり報告患者総数14.36は前年と比べ減少した。定点当たり報告数は1月から3月までは例年と同様の水準で推移したが、4月以降は例年より少ない水準で推移した。定点当たり報告数の最大値は、第8週(2/17～23)の0.63であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、20歳未満は16.4%、20歳以上は83.6%を占めた。報告患者は30歳代、20歳代、40歳代の順に多かった。

表 3-2 定点把握対象疾患の推移・定点当たり報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日 (週開始日)	インフルエンザ	R S ウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院患者)
20・1	12/30	12.22	0.22	0.26	0.96	1.57	0.47	0.09	0.12	0.05	-	0.03	-	0.15	-	-	0.64	-	-	2.45
20・2	01/06	19.29	0.32	0.62	2.72	6.81	1.12	0.19	0.31	0.26	0.01	0.04	0.03	0.61	-	-	0.45	-	-	3.36
20・3	01/13	17.29	0.30	0.53	2.67	7.41	0.48	0.16	0.23	0.43	0.02	0.09	0.02	0.39	-	-	0.36	-	-	2.27
20・4	01/20	16.80	0.33	0.48	3.50	8.69	0.60	0.22	0.34	0.36	0.01	0.07	-	0.46	0.09	-	-	-	-	1.55
20・5	01/27	14.81	0.30	0.51	3.84	8.60	0.44	0.24	0.19	0.29	0.01	0.04	0.07	0.34	-	0.09	0.27	-	-	0.27
20・6	02/03	9.51	0.35	0.41	3.97	8.57	0.50	0.19	0.21	0.27	0.03	0.08	-	0.15	-	-	0.82	-	0.09	1.00
20・7	02/10	8.19	0.18	0.38	3.72	7.61	0.58	0.14	0.21	0.36	0.02	0.09	-	0.49	-	0.18	0.55	-	-	0.27
20・8	02/17	7.06	0.32	0.31	4.16	7.40	0.47	0.15	0.18	0.28	-	0.05	-	0.63	-	-	0.27	-	-	0.36
20・9	02/24	4.83	0.28	0.38	3.49	4.76	0.52	0.12	0.13	0.30	0.02	0.06	-	0.41	-	-	0.09	-	-	0.09
20・10	03/02	3.51	0.26	0.38	3.07	4.10	0.64	0.08	0.16	0.31	0.01	0.04	0.02	0.49	-	-	0.36	-	-	-
20・11	03/09	1.42	0.13	0.34	2.53	3.52	0.65	0.09	0.10	0.22	0.01	0.06	0.05	0.22	-	-	0.64	-	-	0.09
20・12	03/16	0.42	0.11	0.28	1.42	2.30	0.42	0.10	0.15	0.34	-	0.06	0.02	0.27	-	-	0.36	-	-	0.18
20・13	03/23	0.24	0.07	0.23	1.37	2.52	0.36	0.04	0.09	0.28	0.01	0.08	0.05	0.33	0.09	-	0.36	-	-	-
20・14	03/30	0.15	0.05	0.18	1.15	2.15	0.22	0.09	0.07	0.32	0.01	0.07	0.02	0.33	0.18	0.09	0.36	-	-	-
20・15	04/06	0.05	0.05	0.14	1.08	1.61	0.19	0.07	0.15	0.35	0.01	0.06	0.03	0.30	-	-	0.36	-	-	-
20・16	04/13	0.02	0.03	0.09	0.70	1.21	0.20	0.05	0.02	0.28	0.01	0.09	0.07	0.26	0.09	-	0.09	-	-	-
20・17	04/20	-	0.02	0.09	0.48	1.07	0.11	0.03	0.06	0.44	0.01	0.07	-	0.22	-	0.09	0.55	-	-	-
20・18	04/27	-	0.01	0.03	0.47	1.03	0.08	0.07	0.04	0.38	0.01	0.06	-	0.11	-	0.09	0.09	-	-	-
20・19	05/04	-	0.01	0.03	0.29	0.76	0.08	0.04	0.03	0.18	0.01	0.03	-	0.15	-	-	0.09	-	-	-
20・20	05/11	-	0.01	0.05	0.33	1.04	0.09	0.09	0.02	0.41	0.01	0.06	0.03	0.18	0.09	-	-	-	-	-
20・21	05/18	-	-	0.04	0.25	1.03	0.06	0.06	0.02	0.31	0.02	0.07	-	0.20	-	-	-	-	-	-
20・22	05/25	-	-	0.04	0.36	1.22	0.06	0.04	0.01	0.39	0.01	0.03	0.05	0.20	-	-	-	-	-	-
20・23	06/01	-	-	0.06	0.43	1.33	0.07	0.14	0.04	0.43	0.02	0.07	-	0.23	0.09	-	0.09	-	-	-
20・24	06/08	-	-	0.03	0.36	1.77	0.19	0.17	0.01	0.60	0.02	0.08	-	0.15	-	-	-	-	-	-
20・25	06/15	-	-	0.04	0.41	2.12	0.07	0.16	-	0.57	0.02	0.05	0.05	0.15	-	0.18	-	-	-	-
20・26	06/22	-	-	0.04	0.71	2.67	0.02	0.12	0.02	0.69	0.02	0.10	0.03	0.18	0.09	-	-	-	-	-
20・27	06/29	0.01	0.01	0.04	1.10	3.22	0.12	0.16	0.04	0.64	0.09	0.07	-	0.23	-	0.09	0.09	-	-	-
20・28	07/06	-	0.01	0.04	1.00	3.16	0.11	0.18	0.01	0.61	0.04	0.06	0.08	0.33	0.09	0.09	-	-	-	-
20・29	07/13	-	0.01	0.11	0.87	3.16	0.13	0.11	0.02	0.68	0.06	0.07	0.03	0.18	-	0.18	-	-	-	-
20・30	07/20	-	0.02	0.06	0.50	2.07	0.12	0.11	0.02	0.60	0.02	0.04	0.03	0.08	-	-	-	-	-	-
20・31	07/27	-	-	0.06	0.62	2.32	0.17	0.09	0.02	0.57	0.09	0.08	0.03	0.26	-	-	0.09	-	-	-
20・32	08/03	-	0.01	0.07	0.36	1.86	0.23	0.13	0.01	0.61	0.19	0.07	-	0.24	-	-	-	-	-	-
20・33	08/10	-	-	0.14	0.24	1.25	0.21	0.14	0.01	0.37	0.06	0.03	-	0.08	-	0.09	-	-	-	-
20・34	08/17	-	-	0.09	0.32	1.82	0.21	0.13	0.01	0.52	0.11	0.06	0.08	0.28	-	0.09	0.18	-	-	-
20・35	08/24	-	-	0.17	0.40	2.50	0.10	0.11	0.03	0.59	0.10	0.09	0.08	0.28	-	0.18	0.09	-	-	-
20・36	08/31	-	-	0.27	0.58	2.57	0.09	0.07	0.01	0.54	0.22	0.09	0.03	0.24	-	0.18	0.09	-	-	-
20・37	09/07	-	0.02	0.21	0.39	2.50	0.16	0.09	0.04	0.69	0.20	0.12	-	0.29	-	0.09	0.09	-	-	-
20・38	09/14	-	-	0.25	0.40	2.38	0.16	0.10	0.02	0.70	0.14	0.09	-	0.31	-	-	0.09	-	-	-
20・39	09/21	-	-	0.12	0.35	1.88	0.10	0.11	0.01	0.50	0.10	0.06	-	0.10	-	0.09	-	-	-	-
20・40	09/28	-	-	0.17	0.70	2.16	0.15	0.09	0.05	0.44	0.06	0.09	0.02	0.29	-	-	-	-	-	-
20・41	10/05	-	0.01	0.10	0.78	2.34	0.10	0.06	0.01	0.60	0.10	0.12	-	0.44	-	-	-	-	-	-
20・42	10/12	-	-	0.11	0.79	2.30	0.11	0.02	0.07	0.58	0.08	0.04	-	0.38	-	-	-	-	-	-
20・43	10/19	-	-	0.13	0.62	2.41	0.19	0.04	0.05	0.43	0.09	0.05	-	0.29	-	-	0.09	-	-	-
20・44	10/26	-	0.01	0.15	0.91	2.35	0.16	0.02	0.02	0.49	0.09	0.04	0.05	0.26	-	-	0.09	-	-	-
20・45	11/02	-	-	0.17	0.70	2.29	0.18	0.02	0.01	0.46	0.08	0.10	0.02	0.24	-	-	0.09	-	-	-
20・46	11/09	-	-	0.18	0.66	2.43	0.27	0.06	0.02	0.45	0.06	0.09	-	0.30	-	-	-	-	-	-
20・47	11/16	0.02	-	0.34	0.66	2.42	0.26	0.03	0.05	0.51	0.03	0.08	-	0.26	-	0.09	-	-	-	-
20・48	11/23	-	-	0.26	0.48	2.36	0.33	0.01	0.01	0.45	0.04	0.10	-	0.22	0.09	-	-	-	-	-
20・49	11/30	0.01	0.01	0.35	0.77	2.55	0.22	0.01	0.01	0.41	0.04	0.07	-	0.30	-	0.09	-	-	-	-
20・50	12/07	-	0.01	0.35	0.82	2.48	0.26	0.02	0.02	0.49	0.09	0.07	-	0.15	0.09	-	0.09	-	-	-
20・51	12/14	-	0.01	0.27	0.69	2.31	0.25	0.02	0.02	0.49	0.04	0.08	-	0.15	-	-	-	-	-	-
20・52	12/21	-	0.01	0.30	0.70	2.28	0.23	0.04	0.01	0.37	0.02	0.06	-	0.13	-	-	-	-	-	-
20・53	12/28	0.01	0.01	0.13	0.25	0.88	0.14	0.01	-	0.17	0.01	0.03	-	0.18	0.09	-	-	-	-	-
2020年 計		116.84	3.52	10.67	61.74	156.51	13.48	4.94	3.53	23.18	2.58	3.59	1.00	14.36	1.09	2.00	7.91	-	0.09	11.91
2019年 計		476.25	36.96	25.65	139.11	316.88	26.99	162.01	42.20	22.91	38.33	5.95	1.87	29.69	0.64	3.55	12.82	0.09	11.36	52.64
2020年/2019年比		0.2	0.1	0.4	0.4	0.5	0.5	0.0	0.1	1.0	0.1	0.6	0.5	0.5	1.7	0.6	0.6	0.0	0.0	0.2

※表中の定点当たり報告数は、小数第3位で四捨五入

(-:0)

(4) 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

第1週～53週の累積報告患者数は12例であった。定点当たり報告患者総数1.09は前年と比べ増加した。報告は散発的で、53週のうち11週で1例～2例の報告があり、定点当たり報告数の最大値は0.18であった。患者は35歳以上で、年齢階級別では、35から70歳未満が66.7%、70歳以上が33.3%であった。

2) 無菌性髄膜炎

第1週～53週の累積報告患者数は22例であった。定点当たり報告患者総数2.00は前年と比べ減少した。報告は年間を通して断続的で、53週のうち17週で1例～2例報告があり、定点当たり報告数の最大値は0.18であった。年齢階級別では、20歳未満が36.4%、20～70歳未満が50.0%、70歳以上が13.6%であった。

3) マイコプラズマ肺炎

第1週～53週の累積報告患者数は87例であった。定点当たり報告患者総数7.91は前年と比べ減少した。1月から4月までは、ほぼ継続的に報告はあったが、以後は断続的な報告となった。定点当たり報告数の最大値は、第6週(2/3～9)の0.82で、前年の最大値1.00を下回った。年齢階級別では5-9歳、10-14歳、1-4歳の順で多く、この3階級で全体の69.0%を占めた。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

第1週～53週の患者の報告はなかった。報告患者数は2018年が4例、2019年が1例と2018年以降は5例未満となっている。

5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)

第1週～53週の患者の報告は、第6週(2/3～9)の0歳児1例のみであった。定点当たり報告患者総数0.09は前年と比べ大きく減少し、例年のような初春から初夏にかけての流行は観察されなかった。

6) インフルエンザ(入院患者)

第1週～53週の累積報告患者数は131例であった。定点当たり報告患者総数11.91は前年と比べ大きく減少した。報告数は、前年12月から増加し1月まで多い状況が続き、定点当たり報告数の最大値は、第2週(1/6～12)の3.36であった。3月下旬以降、年末まで患者報告はなかった。年齢階級別では、10歳未満が35.1%、70歳以上が38.2%を占めた。

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

1月～12月の累積報告患者数は160例であった。定点当たり報告患者総数14.55は前年と比べ僅かに減少した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値0.91、最大値1.82の範囲で推移した。最大値は前年の最大値1.91を下回った。年齢階級別では、70歳以上が113例(男69例、女44例)で最も多く、全体の70.6%を占めた。

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

1月～12月の累積報告患者数は28例であった。定点当たり報告患者総数2.55は前年と比べ減少した。5月を除いて患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値0.00、最大値0.55の範囲で推移した。最大値は前年の最大値0.82を下回った。年齢階級別では、70歳以上が18例(男14例、女4例)で最も多く、全体の64.3%を占めた。

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

1月～12月の累積報告患者数は6例であった。定点当たり報告患者総数0.55は前年と同水準であった。報告は2月、7月、8月及び12月に各1例、11月に2例で、定点当たり報告数の最大値0.18は、前年の最大値と同値であった。年齢階級別では、70歳以上が3例(男2例、女1例)、55-59歳が2例(女)、60-64歳が1例(男)であった。

(5) 性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

1月～12月の累積報告患者数は1,596例(男556例、

女1,040例、性比0.53)であった。定点当たり報告患者総数27.19は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値1.76、最大値2.76の範囲で推移した。報告患者は男では20歳から39歳が396例(71.2%)、女では20歳から34歳が810例(77.9%)で、男女共に前年と同様の傾向であった。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

1月～12月の累積報告患者数は494例(男101例、女393例、性比0.26)であった。定点当たり報告患者総数8.42は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値0.44、最大値0.80の範囲で推移した。報告患者は男では20歳から39歳が62例(61.4%)で、最も報告数が多い年齢階級は30-34歳であった。女では20歳から49歳が308例(78.4%)で、最も報告数が多い年齢階級は25-29歳であった。

3) 尖圭コンジローマ

1月～12月の累積報告患者数は249例(男107例、女142例、性比0.75)であった。定点当たり報告患者総数4.24は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値0.17、最大値0.56の範囲で推移した。報告患者は男では25歳から54歳が76例(71.0%)で、最も報告数が多い年齢階級は25-29歳であった。女では20歳から39歳が114例(80.3%)で、最も報告数が多い年齢階級は25-29歳であった。

4) 淋菌感染症

1月～12月の累積報告患者数は380例(男293例、女87例、性比3.37)であった。定点当たり報告患者総数6.47は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値0.34、最大値0.76の範囲で推移した。男の報告患者は20歳から44歳が213例(72.7%)で、最も報告数が多い年齢階級は20-24歳であった。女では20歳から34歳が59例(67.8%)で、最も報告数が多い年齢階級は20-24歳であった。

(6) 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2020年、埼玉県における発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの届出はなかった

表 4 年齢階級別報告数(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点 週単位報告)

年齢階級	インフルエンザ	年齢階級	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	年齢階級	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	年齢階級	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎	(ロタウイルス)	インフルエンザ	(入院患者)
-6カ月	115	-6カ月	68	5	3	187	9	10	2	32	-	-	-6カ月	1	2	0歳	-	7	4	-	1	6		
-12カ月	366	-12カ月	117	81	20	1,218	53	55	18	962	19	1	-12カ月	1	5	1-4歳	-	-	13	-	-	22		
1歳	1,043	1歳	178	489	315	3,134	114	207	68	2,022	121	11	1歳	2	9	5-9歳	-	1	31	-	-	18		
2歳	1,093	2歳	91	284	574	2,408	75	121	46	453	90	32	2歳	-	8	10-14歳	-	-	16	-	-	8		
3歳	1,309	3歳	52	220	805	2,237	153	84	48	156	71	51	3歳	-	5	15-19歳	-	-	1	-	-	1		
4歳	1,770	4歳	26	203	1,261	2,202	208	117	83	60	33	71	4歳	1	7	20-24歳	-	-	3	-	-	2		
5歳	2,015	5歳	13	133	1,313	1,855	262	70	95	24	114	5歳	-	3	25-29歳	-	-	3	-	-	-	-		
6歳	2,140	6歳	5	97	1,230	1,634	288	40	72	13	84	6歳	1	10	30-34歳	-	1	2	-	-	1			
7歳	2,136	7歳	2	62	934	1,327	238	18	39	6	58	7歳	-	5	35-39歳	1	5	3	-	-	-	-		
8歳	2,017	8歳	2	41	814	1,189	237	18	27	7	47	8歳	-	5	40-44歳	1	2	6	-	-	-	2		
9歳	1,521	9歳	2	12	648	1,060	191	10	16	3	26	9歳	-	2	45-49歳	-	-	1	-	-	-	2		
10-14歳	4,589	10-14歳	2	38	1,229	3,117	292	30	37	16	67	10-14歳	-	10	50-54歳	1	-	1	-	-	-	-		
15-19歳	1,036	15-19歳	-	4	105	691	13	2	2	2	5	15-19歳	-	21	55-59歳	2	1	-	-	-	-	1		
20-29歳	1,298	20歳以上	1	27	566	2,626	10	4	9	5	4	20-29歳	3	98	60-64歳	3	1	-	-	-	-	4		
30-39歳	1,932											30-39歳	4	123	65-69歳	-	1	-	-	-	-	14		
40-49歳	2,305											40-49歳	9	97	70歳以上	4	3	3	-	-	-	50		
50-59歳	1,246											50-59歳	1	69										
60-69歳	735											60-69歳	2	45										
70-79歳	463											70歳以上	14	36										
80歳以上	198																							
合計	29,327	合計	559	1,696	9,817	24,885	2,143	786	562	3,685	410	571	合計	39	560	合計	12	22	87	-	1	131		

(-:0)

表 5 定点把握対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	メチリル耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	18	1.64	4	0.36	-	-	142	2.45	44	0.76	10	0.17	44	0.76
2月	10	0.91	3	0.27	1	0.09	128	2.17	26	0.44	19	0.32	20	0.34
3月	11	1.00	4	0.36	-	-	160	2.76	44	0.76	24	0.41	24	0.41
4月	14	1.27	2	0.18	-	-	130	2.20	34	0.58	21	0.36	21	0.36
5月	12	1.09	-	-	-	-	141	2.39	47	0.80	18	0.31	31	0.53
6月	16	1.45	2	0.18	-	-	126	2.14	45	0.76	33	0.56	37	0.63
7月	12	1.09	3	0.27	1	0.09	139	2.36	43	0.73	26	0.44	32	0.54
8月	20	1.82	1	0.09	1	0.09	141	2.39	40	0.68	20	0.34	39	0.66
9月	10	0.91	1	0.09	-	-	151	2.56	44	0.75	18	0.31	30	0.51
10月	11	1.00	1	0.09	-	-	129	2.19	47	0.80	22	0.37	36	0.61
11月	12	1.09	6	0.55	2	0.18	107	1.81	37	0.63	19	0.32	37	0.63
12月	14	1.27	1	0.09	1	0.09	102	1.76	43	0.74	19	0.33	29	0.50
2020年 計	160	14.55	28	2.55	6	0.55	1,596	27.19	494	8.42	249	4.24	380	6.47
2019年 計	201	18.27	55	5.00	7	0.64	1,609	27.60	503	8.63	224	3.84	415	7.12
2020年/2019年比	0.8	0.8	0.5	0.5	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1	0.9	0.9

(-:0)

表 6 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

年齢階級	メチリル耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	2	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
5-9歳	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	1	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	1
15-19歳	1	-	-	-	-	-	33	111	2	14	-	7	14	9
20-24歳	-	-	-	-	-	-	133	369	12	57	7	38	68	27
25-29歳	-	-	-	-	-	-	134	294	16	73	24	42	49	20
30-34歳	1	2	-	-	-	-	71	147	18	58	5	19	41	12
35-39歳	1	1	-	2	-	-	58	54	16	38	7	15	26	4
40-44歳	-	-	-	-	-	-	44	26	4	40	17	7	29	5
45-49歳	4	1	1	-	-	-	37	26	7	42	10	5	25	2
50-54歳	5	2	1	-	-	-	18	7	11	15	13	3	21	3
55-59歳	3	2	-	-	-	2	11	3	9	12	6	2	10	2
60-64歳	6	2	-	-	1	-	10	2	2	9	10	1	6	1
65-69歳	4	2	-	1	-	-	3	-	4	8	3	-	2	-
70歳~	69	44	14	4	2	1	4	-	-	23	5	3	2	-
合計	98	62	18	10	3	3	556	1,040	101	393	107	142	293	87
男女比	1.58	1.00	1.80	1.00	1.00	1.00	0.53	1.00	0.26	1.00	0.75	1.00	3.37	1.00

(-:0)

まとめ

2020年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について、各疾患別にその動向をまとめた。

指定感染症の新型コロナウイルス感染症が2月に確認されて以降大きく増加し、14,680例に達した。

全数把握対象疾患の二類感染症では、結核が872例の届出があり、前年より大きく減少した。

三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は前年に比べ大きく減少し、届出は9月が最も多く、全体の6割以上の届出が6月～9月に集中した。

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、オウム病、ジカウイルス感染症、つつが虫病、デング熱、レジオネラ症の計7疾患の届出があり、前年の計11疾患と比べ減少した。

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎（E型・A型を除く）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘（入院例）、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風しんの計18疾患の届出があった。風しんは4例と、流行のあった前年の198例に比べ大きく減少した。また、麻しんの報告はなく、前年の35例に比べ大きく減少した。

定点把握対象疾患の定点当たり報告患者総数は多くの疾患で前年より減少した。

文献

- 1) 厚生労働省：感染症法における感染症の分類,
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000203410.pdf>（参照2021年7月7日）
- 2) 厚生労働省：オープンデータ,
<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>
（参照2021年7月7日）